

# デジタル・ビジネスモデル研究所の使命

2023/7/28 デジタル・ビジネスモデル研究所 代表 幡鎌 博

この資料では、弊社の使命（パーパス）をご説明いたします。

代表の幡鎌が大学から研究してまいりましたビジネスモデルの構造化・AIによるモデリング等の手法を、DX（デジタルトランスフォーメーション）検討時の新事業・新サービスの設計・発想のご支援に活用することを使命と考え、起業いたしました。

DXでは、攻めの姿勢が重要です。単に情報システムを作り替えて効率化するだけの守りの姿勢よりも、DXを契機として新事業・新サービスまでも視野に入れた検討が望まれます。企業変革してビジネスチャンスを見つける位の姿勢でないと、新たなデジタル化の効果を最大化できないためです。新事業・新サービスを検討する際には、ビジネスモデルをどう構築するかを詳しく検討する必要があります。弊社では、独自の метод論を提供することでそのためのご支援をいたします。

弊社の方法論は、「ビジネスアーキテクト」（DX推進スキル標準で定義された主にビジネスに関するアーキテクチャを設計する人材）が、DXでの新事業/サービスを設計して実現方法を検討するための方法論です。ビジネスモデルキャンバスやリーンキャンバスを利用するよりも、DXでのビジネスモデルの創造を支援できると信じています。

弊社によるDXのためのビジネスモデル設計のための方法論の特徴：

- ① ビジネスモデルを構造化して設計可能
- ② ビジネスモデル実現ダイアグラムにより収益・コスト構造や要素間の因果関係まで検討可能
- ③ AIによる表現により、ビジネスマッチングなどへの応用が可能

ビジネスモデルを構造化すれば組み合わせ方を模索可能。つまり、最適なビジネスモデルを効率的に探求可能である。そのため、ビジネスモデル全体をパターン化するのではなく、3つの視点から分解して構造化して検討・設計する方法を提案しています（IT活用やプラットフォーム化も考慮）。

ビジネスモデルの発想・設計のための3種類の視点とは、

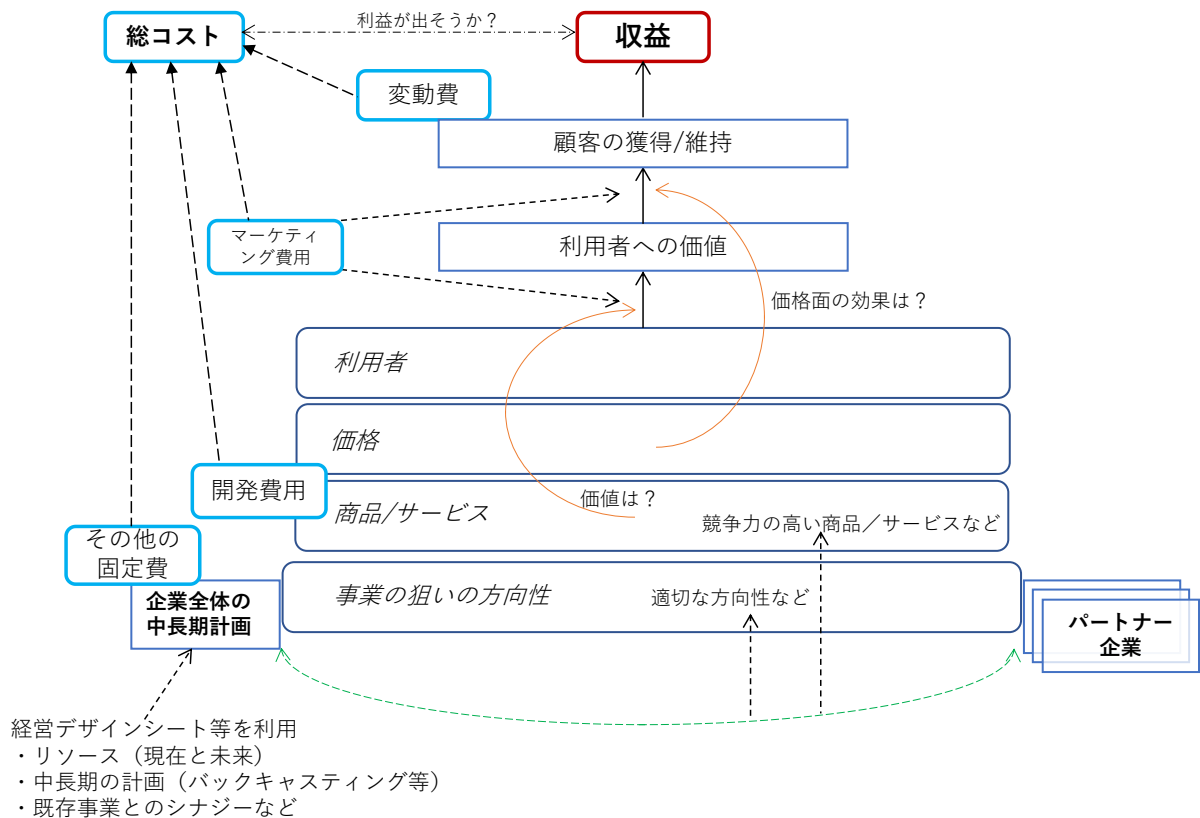
- ・ 商品/サービス --- 商品/サービスに関して、価値を提供する手法
- ・ 価格 --- 価格の付け方の特徴に関しての手法
- ・ 利用者 --- 利用者にもたらす価値の面から、利用者をセグメント化する方針

また、「事業/収益の方向性」（事業の位置付けや収益に関しての大きな方向性）は、ビジネスモデルの発想時にTRIZのような強制発想などを行う際に活用するための視点です。

このような構造化の視点から、望ましいビジネスモデルの発想・設計を行う方法論を提供します。様々な組み合わせを検討できるため、発想する上で有効な手法と考えております。また、プラットフォーム設計では、プラットフォームの仲介機能などの検討に役立ちます。企業改革の面では、内閣府知的財産戦略本部が提唱している経営デザインシートとの併用を考慮しています。

さらに、ビジネスモデルの検証・評価の仕組みを加えます。実現に近づけるためには分析が必要であるためです。具体的には、以下の図のように、収益・コストを分析する記法を加えた「ビジネスモデル実現ダイアグラム」を提案しています（ダイアグラムといっても、アローダイアグラムのような記述方法の明

確な定義はなく、関係を重視した記法です)。詳細は、小著「DX のためのビジネスモデル設計方法 改訂版」を参照してください。



弊社のビジネスモデル構造化手法は、ビジネスモデルをAIでモデリングする研究に基づいています。AIのルールベースと呼ばれる方式で、ビジネスモデルの要素間の因果関係を説明するモデリングを行い、AI言語のPrologでビジネスモデルを表現することで、ビジネスモデルの成立理由をより明確に表現できます。弊社は、そのような研究を発展させて、DXでの新事業・新サービスの設計・発想の際のビジネスモデル面のご支援だけでなく、ビジネスマッチングを支援する課題にも取り組んでまいります。つまり、ビジネスモデル自体を「デジタル化」することで、人間が発想する以上のチャンス発見ができ、ビジネスマッチングやビジネス創造に貢献できる可能性があると考えております。これらの研究については、幡鎌の論文「ビジネスモデル成立のAIによる表現とサブスクリプションのビジネスマッチングへの応用に関する研究」([https://www.jstage.jst.go.jp/article/jasmin/202211/0/202211\\_203/\\_article/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jasmin/202211/0/202211_203/_article/-char/ja)、経営情報学会の2022年大会の発表資料)や、「ビジネスモデルのProlog表現に関する研究：サブスクリプション事業のビジネスマッチングへの応用」(人工知能学会BI研究会2022年9月の論文)などをご覧ください。

また、幡鎌が大学教員時代から更新しております事例集・リンク集というような情報発信も(ビジネスモデル特許の調査を含めて)続けてゆく予定です。大学向けのテキスト「eビジネス・DXの教科書」(2022年)は、企業の方のDX入門用書籍としても活用可能ですので、ぜひご利用ください。お役にたてば幸いです。

以上